

はじめに

2008年末に発足した新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」の第4班は、「帝国の崩壊・再編と世界システム」を研究課題としている。中心的な研究目的は、ユーラシアの近代諸帝国史を実証的に比較研究したうえで、帝國的な過去が現在の地域大国のあり方にどのような影響を与えているか、また各時代の帝國的国際秩序の中で個々の帝国や大国・小国がどのような位置づけにあるかを究明し、歴史的視点に基づく国家論を構築することである。

この班では、独自の研究会のほか学会パネルや新学術領域研究全体集会での企画、共催研究会などを含め、これまでに計20回の研究会・討論会を開き、比較帝国論の諸論点に関する議論を深めてきた。残る1年余りの研究期間では、国際シンポジウム *Comparing Modern Empires: Imperial Rule and Decolonization in the Changing World Order* (2012年1月18～20日)の開催と、ミネルヴァ書房からの最終成果出版が主要課題となるが、その前に、これまでの研究会の成果・概要をまとめておくために本報告集を刊行することにした。この中には、国際シンポジウムや最終成果出版には必ずしも組み込まれない論点が多く含まれているからである。

第1部は3本の論文から成る。1本目の宇山智彦論文は、新学術領域研究の準備段階で発表された、本研究の出発点での問題意識を表すものである。前近代の帝国とは異なる近代帝国の特徴、帝国の個別主義的な政策が生む臣民にとってのバーゲニングの可能性、帝国崩壊後の半帝国・半国民国家の成立、現代世界における国民国家体制の相対化による成熟と、帝國的権力の限界などを論じている。

他の2本は、日本国際政治学会2010年度研究大会で第4班が組織した部会「地域からの帝国論：比較史と現在」(第2部12の概要参照)で発表された論文である。岡本隆司論文は、モンゴルとチベットへの主権・宗主権の問題を通して、近世帝国清朝の崩壊前後の中国が、近代西欧帝国イギリスによる揺さぶりの中でいかに主権へのこだわりを強めたかを論じる。森まり子論文は、ユダヤ人が諸帝国からさまざまなモデルやヒントを取り入れながらシオニズム運動を展開したことを指摘する。なお、同じ部会で宇山も報告を行ったが、ペーパーは別の形で刊行する予定のため、本書には収録していない。

第2部は、これまでに開催した研究会のうち共催研究会の一部や討論会を除く15回の概要と、大半の報告のレジュメを収録した。対象地域は日本を含むユーラシア諸地域はもとよりアメリカにも及ぶ。テーマも多種多様だが、大まかに分ければ、18世紀から20世紀初頭までの近代帝国の統治と国際秩序、20世紀前半の諸帝国崩壊とその遺産、20世紀後半の

脱植民地化、現代世界における「アメリカ帝国」論の意義などを論じている。分析視角としては、帝国と植民地の相互認識、人と物の移動、帝国と国民国家の重なり（山室信一の「国民帝国」論など）、「公式帝国」と「非公式帝国」などがある。イギリス帝国論に由来する「コラボレーター」論を他の帝国・地域に創造的に適用する試みもなされた。

こうして一冊にとりまとめてみると、現在さまざまな研究者が多様なアプローチで比較帝国論を研究し、現代的意義を持つ豊かな知的世界を作り出していることが分かる。当班の研究会が、それらの研究者の出会いの場となり、新しいアイデアや研究潮流を作り出すことに貢献できたなら幸いである。研究会で報告・討論・発言をしてくださった班内外の研究者の皆様に、改めてお礼申し上げたい。

なお、各研究会の概要に書かれた報告者の所属・肩書は、報告当時のものであることをお断りしておく。この報告集では概要を新たに編集し直したため文責を書かなかったが、それぞれの会の直後にウェブサイトに掲載した原版は、宇山のほか、黛秋津（元第4班プロジェクト研究員、現広島修道大学准教授）、高橋沙奈美（元第4班プロジェクトアシスタント、現日本学術振興会特別研究員）、福田宏（元第4班プロジェクト研究員、現北海道大学スラブ研究センター助教）の各氏が作成したものである（一部、研究会の組織担当者や報告者が作成したものもある）。福田氏にはまた、本報告集の技術的な編集作業を担当していただいた。記して感謝したい。

2012年1月

宇山 智彦

第4班研究組織

- 研究代表者 宇山智彦（北海道大学スラブ研究センター）
研究分担者 秋田 茂（大阪大学大学院文学研究科）〔副代表〕
山室信一（京都大学人文科学研究所）
川島 真（東京大学大学院総合文化研究科）
守川知子（北海道大学大学院文学研究科）
池田嘉郎（東京理科大学理学部）
連携研究者 古矢 旬（東京大学大学院総合文化研究科）
菅 英輝（西南女学院大学人文学部）
粟屋利江（東京外国語大学大学院総合国際学研究院）
秋葉 淳（千葉大学文学部）